

本部だより

●第43号



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>



携帯サイト

- 発行日:令和3年2月1日 ●発行人:高林芳夫
- 本部:181-0012 東京都三鷹市上連雀8-7-8
- 電話 & FAX:0422-77-8557 ●編集人:鈴木千春



ルオット(ロイ・ナムル)島の日本軍戦没者慰霊碑 こちらの碑は米軍退役軍人が建立した



新年あけましておめでとうござい
ます。皆様お健やかに新年をお迎えの事と
お慶び申し上げます。

今年の慰霊祭はコロナ感染防止の為、
残念ながら中止と決定致しました。皆様
の安全を第一に考えこのような結論に至
りました。令和二年に続き、三年も中止
となった事、申し訳なく思っております
す。各ご家庭で英霊に対し、感謝の誠を
捧げましょう。

当マーシャル方面遺族会は今年で58年
を迎えます。慰霊祭が中止となったこの
機会に、会が歩んだ歴史を振り返ってみ
てはいかがでしょうか。会のホームページ
には発足時から現在までの歩みが詳細に
記録されています。

また、次世代への引継ぎ、会の存続に
ついて皆様のご意見をお寄せください。
国内では毎日感染者が増え続けて
います。世界では再びロックダウンの
国も出ていて、7月の東京オリンピック

ク、パラリンピックは、はたして開催出来るのか心配です。

コロナ対策はまずは自助、自己責任でしっかりと自分の身は自分で守りましょう。

今年も健康で、コロナに負けず、希望に満ちた一年でありますようお祈り申し上げます。

慰霊祭、総会、直会の

中止に関して

11月13日の役員会にて、慎重に検討の結果、令和3年度の慰霊祭・総会・直会は中止するという結論に至りました。昨今のコロナ感染事情をふまえ、11月の時点で連日報道される感染者数の増加に、皆様の安全を考慮し、苦渋の決断をいたしました。

4月の桜の下、皆様とお会いできることを楽しみにしておりましたが、何卒ご理解頂けますよう、お願い申し上げます。

会としての慰霊祭は中止ですが、皆様、個別に靖国神社へお参りください。

また、その際には、ぜひ千鳥ヶ淵戦没者墓苑にもお参りください。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑 奉仕会・永代会員に

役員会にて検討し、当会は千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会・永代会員に登録いたしました。



「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」は、昭和34年3月、戦没者のご遺骨をお納めするため国が建立しました。国の墓苑管理に限界があるとの認識から、これを補うため千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会が、墓苑の創建とともに設立されました。

奉仕会では慰霊行事として、10月の秋季慰霊祭を実施しています。（5月の拝礼式は厚生労働省が主催）2か月に

一度、広報誌「千鳥ヶ淵」の発行、HPの開設等の広報をしています。

靖国神社にお参りの際は是非、戦没者の遺骨が眠る千鳥ヶ淵戦没者墓苑もお参りください。

事務局より

●会費納入のお願い

当会は皆様からの会費と、ご寄付で運営しております。

同封の振込み用紙にて、2月末までにお振込みをお願いします。

- ・年会費 3千円
- ・寄付金 任意ですが、何卒ご協力をお願い申し上げます。

前号でお知らせしましたが、諸般の事情で振込手数料は各自負担でお願い申し上げます。

●未納会費 納入のお願い

前年度の会費未納者は44名でした。そのうち14名よりご入金をいただきました。ありがとうございます。

現在30名の未納者がございますので、

前年度のお振込みを忘れていらつしやる方は、よろしく願ひします。

●お知らせ

3月に予定されていた戦没者遺児による慰霊友好親善事業は中止となりました。

●寄付者ご芳名 (順不同)

令和2年7月～9月まで、左記の皆様よりご寄付をいただきました。

茨城県 北条 晃 様 2千円

埼玉県 吉原利美 様 2千円

愛知県 安藤正也 様 1万円

高知県 藤田洋子 様 7千円

藤田洋子様には前号にて記載不備がありました。心よりお詫び申し上げます。

新潟県 渡辺美枝子様 1万円

渡辺様は非会員ですが、当会会報を興味深く読まれています。父が軍人で幼少時に中国から命からがら引揚げてこられたそうです。

花のイラスト

7月15日靖国神社 永代神楽祭

毎年7月15日は当会の永代神楽祭です。会員でしたら、どなたでも参列できます。こちらにも是非、ふるってご参加ください。

当日は、参集殿の玄関で「マーシャル方面遺族会です」と申し出ますと、そのまま控え室へ案内されます。13時過ぎには、控室に当会役員がいます。昇殿参拝は14時からですので、少なくとも13時30分までにはお越し下さい。

当日はみたままつりの最中です。東京の夏の風物詩ともなっていますので、こちらもお楽しみ下さい。

令和2年全国戦没者追悼式

高林芳夫

終戦から75年。令和2年8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が、東京九段の日本武道館で挙行されました。

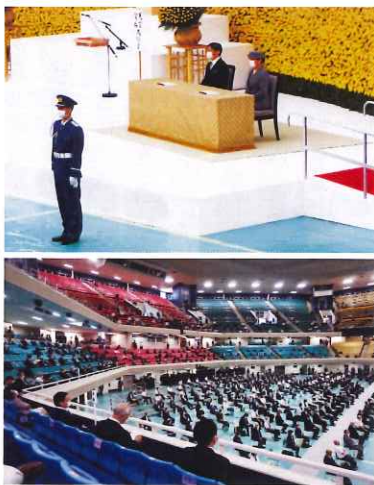
式典には全国から遺族代表が参列しました。今年には新型コロナの影響で、式典の規模が例年と全く異なり、参列者は約

五百五十名と、例年の1割以下で、遺族代表も20の県・府が参加を断念したようです。

式典では天皇皇后両陛下が、菊の花で飾られた式壇にご臨席になられ、国歌が演奏されました。コロナ対策で斉唱はせず、演奏のみでした。

安倍首相の式辞のあと、正午の時報に合わせ全員で1分間の黙とうをささげました。そのあと天皇陛下がおことばを述べられ、続いて衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・遺族代表が追悼の辞を述べました。

天皇皇后両陛下がご退席になられ、内閣総理大臣、遺族代表、青少年代表、来賓、地方公共団体代表と献花が続き、最



後に厚生労働大臣が献花をして式典は終了しました。

「天皇陛下のおことば」

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来七十五年、人々のたゆまない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられました。多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、新たな苦難に直面していますが、私たち皆が手を共に携えて、この困難な状況を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧

み、深い反省の上に立って、再び戦争の禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

東京都戦没者追悼式 保延 務

8月15日、東京都戦没者追悼式が、東京都と東京都遺族連合会の主催で挙行されました。私はマーシャル方面遺族会代表として参列しました。今回は、参列者を各遺族会等の代表者に限り、例年の一割以下86人に縮小し、会場も都庁に変更して開かれました。

式典では小池百合子都知事が「平和な世界を未来の子供たちへ引き継いでいく事を誓う」と式辞を述べ、正午の時報に合わせて、黙とうを捧げました。

遺族を代表して追悼のことばを述べた東京都青梅市戦没者遺族会長の持田幸男さんは、御父上がサイパン島で戦死されました。当時1歳だった持田さんに、父親の記憶はないが「父と別れる時、大声

で泣き、泣き止まなかったと母から聞いた。戦争は勝っても負けてもすべての人が犠牲となります。戦争は二度と起こしてはなりません」と語りました。

私は当会代表として献花し、不戦を誓ってまいりました。今年の追悼式は、参加出来ない遺族のために初めてインターネットで生中継されました。新型コロナウイルス感染症防止のため、席の間隔を1メートル以上空けるなど、厳重な感染防止策がとられた式典でした。

*式典の様子は「東京都戦没者追悼式」で、ネット動画がご覧いただけます。

戦後75年を迎えて 反戦の誓い

愛媛県松山市山村一郎(84才)

終戦から75年目を迎えました。戦争を知らない方々が日本人の85%を占めるそうです。悲惨な戦争を子供期に体験した我々は、そのことを後世に残すのが、務めだと思えます。

9月2日のNHKラジオ深夜便「明日へのことば」を偶然、耳にしました。内容は、『葛根廟事件』について「興安街



目黒区羅漢寺にある「葛根廟事件邦人遭難の図」(赤星月人)

命日会」会長の大島万吉氏(84才)による、逃避行中の日本人大虐殺事件のお話でした。私はこのことを知りませんでした。

葛根廟とはラマ教のお寺で、モンゴル人と日本人との交流の場だったそうです。その付近は、モンゴル人が多く住む土地でしたが、満州国関連の興安総省が設けられ、首都は興安街と呼ばれました。当然、関東軍関連の役所、軍人も多くいた場所です。そこに昭和20年8月14日(日本降伏の前日)、ソ連軍が突然侵攻しました。命からがら避難する約千二百名の日本人が虐殺された事件と知りませんでした。

当時、日本の満蒙開拓政策で、約50万の日本人が、新天地開拓を夢見て渡満。

私たちの理解では、日本陸軍の精鋭たる関東軍が、これら無垢の自国民を保護し車両、鉄道や馬車を提供して南下を手助けするのが当然の義務と思われまます。ところが大島氏は、関東軍の役割をこう説明されました。関東軍は、国民を守れない、守るのは、国の組織、国の行政機構だけと聞かされたそうです。約一年後、日本の地にたどり着いたのは、僅か約110名でした。

私は司馬遼太郎氏の記述を思い出しました。北関東方面の戦車隊に所属していた同氏は、米軍の九十九里浜方面への上陸に備えて、南下する際、当然、都心や千葉方面からの一般避難民と道路上で遭遇することになり、その混乱をどう避けるかの議論の際、戦車隊上層部は、「進路の邪魔になるものは、ひき殺せ!」と。司馬氏も呆れて日本の軍部は一体、何の為に、敵と戦っているのかと思われた由。戦争は、絶対にやっつけてはいけません。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑
秋季慰霊祭
高林芳夫

令和2年10月19日(月)千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下をお迎えして秋季慰霊祭が挙行されました。墓苑には現在37万69柱の御霊が奉安されています(令和元年5月27日現在)。当会関係のウオツゼ島より帰還した48柱の御遺骨は、春の拝礼式にて納骨予定です。

当日の東京は、昼頃から小雨の降る肌寒い日でした。コロナの影響で人数を縮小しての慰霊祭となり、遺族関係は11都府県の遺族代表、10の遺族会代表が参列しました。

式典は午後1時、秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下が御臨席になられ、奉仕会理事長による開式の辞、国歌吹奏、献茶の儀、奉仕会会長の式辞、昭和天皇御製奉誦、上皇陛下御製誦、音羽ゆりかご会による童謡唱歌奉唱、内閣総理大臣の追悼の辞(代読)、秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下のご拝礼、参列者一同もあわせて拝礼、1分間の黙とうを捧げました。秋篠宮皇嗣

殿下・同妃殿下がご退席になられたのち、陸・海・空・各自衛隊代表部隊による拝礼、次に献花、内閣総理大臣（代理）に続いて日本遺族連合会会長、水落敏栄氏を先頭に遺族会代表が献花、私も当会を代表して献花、御霊に感謝の誠を捧げ、日本の繁栄と不戦を誓ってまいりました。国会議員・自衛隊関係者・参列各関係者が献花、奉仕会理事の閉式の辞によって式典は滞りなく終了。

式典の間には自衛隊音楽隊による奉楽があり厳肅なる式典でした。

訃報

木村久子様 享年100歳（石川県）
おきむらひさま
 大給湛子様 享年99歳（東京都）
 謹んでお悔やみ申し上げます。

当会前相談役の大給湛子様、令和元年8月1日にご逝去されました。

大給様は大正8年、旧朝香宮鳩彦王殿下の第二女王として生まれ、女子学習院を卒業後、昭和16年に尾張徳川の義親氏の三男で陸軍少佐の大給義龍氏と結婚さ

れました。クエゼリンで戦死された音羽正彦侯爵は、大給様のお兄様にあたります。 ※二〇〇九年に書籍を出版されました。



素顔の宮家
 大給湛子
 2009/10/3

東京都庭園美術館として一般公開されているアール・デコの館は、かつての朝香宮邸です。

本書は、朝香宮邸での暮らし、貞明皇后、母の姉妹や親族との触れ合いなどのエピソードが、貴重な写真とともに語られています。

若い方へ、当会の歩みを

高林芳夫

コロナ禍により慰霊祭が中止となり、この機会に、ぜひ当会が歩んだ58年の歴史を振り返ってみましょう。

ホームページの「ドキュメント」には 足利からの会報「環礁」がすべてPDF

で保存され、当時のできごとが詳細に記録されています。



会員の構成も時代と共に変化し、親・妻・兄弟・子供へと引き継がれました。会長職も、親世代の初代から兄弟・子供へと引き継がれて私で七人目となります。

それは「昔を知る人」が減少しているということ。特に若い方には、HPから

「環礁」を読んでいただきたいと思います。

設立当時の遺族の「思い」が伝わってきます。その「思い」を今後は、孫・ひ孫へと引き継いでほしいと願っています。

会の維持、次世代への継承について

山村一郎様よりお手紙を頂戴しましたので掲載します。

「私は大阪在の長男、千葉在の長女に靖国参拝を勧めています。二人共、会社員のため、参拝がままなりません。長女は、お参りしたと申しておりました。今後は、当会への加入を勧めようと思いません。その子供（私の孫娘）が中二になり、春の慰霊祭、直会へ参加予定でしたが、生憎中止になりました。恐らく次回から参加してくれると思います。

私は在米中、ワシントンにある海兵隊記念館を訪問し、クエゼリン島、ルオツト島に於ける米軍側の戦闘記録を入手しております。これを小冊子にして子供達に渡ししておりますが、未だ読んだ様子はないようです。彼らも時間が出来れば読

んでくれると思っております。

この様に少しずつ、彼等の祖父についての追悼を増やして欲しいと希望しております。取り敢えず、今の心境をお知らせ致します」

●事務局では引き続き、ご提案を募集しております。お手紙やメールでご意見をお寄せください。

●若い会員よりこのようなお手紙（下記ご参照）をいただきました。大変ありがたいこととです。

事務局も、どんどん若い世代に、積極的に参加していただきたいと願っています。

米林様

お返事遅くなりました。お手紙ありがとうございます。本誌（ごよみ）もウヰセ島特集号ありがとうございます。交流会、行事などに今まで参加したことがないので何かありましたら、お声かけ頂けたら嬉しいです。何かお手伝いできる事がございましたら、おっしゃって下さい。次の世代にも引き継いでいけるように努めたいと思います。これからもよろしくお祈りいたします。

吉村 真澄

ひいおじい様 久保 久作
生年月日 大正2年10月20日
身分 海軍軍務(工員)

昭和17年10月10日 採用
第4海軍建築部東京支部普通工員
同日 第4海軍建築部ニ転属
10月27日 横須賀港
(特設運送船「極洋丸」便乗
昭和18年8月18日
官制改正ニヨリ第4海軍施設部
トナル

昭和20年5月27日
ウヰセ島にて戦死
写真の発電所辺りに
埋められたそうです。

●遺骨DNAに関する新聞記事(毎日、朝日)をご紹介します。

遺品ない遺骨DNAで確認

戦没者 鑑定対象拡大に道

太平洋戦争の戦地となった太平洋中部のタラフ環礁。キリバス島の戦没者遺骨について、厚労省がDNA鑑定をしたところ、少なくとも日本人の身元が確認された。同省関係者への取材で分かった。遺品には遺骨埋没調査など身元がわからなくなる遺品は多く、こうした遺品についてDNA鑑定で身元が確認できれば初めて、同省は遺品などの存在を確定する要件としてきたが、今回の形で方針転換を迫られる見通し。戦後60年を経て、遺族への返答が加速する可能性がある。

タラフでは太平洋戦争中の1943年、上陸した米軍との間で激しい戦闘があり、多数の日本人戦死者の身元が不明。タラフには朝鮮半島出身の軍属もいたため、米軍側の民間団体がタラフで

のDNA鑑定を実施する。同省関係者によると、少なくとも日本人1人の身元が判明した。

タラフには朝鮮半島出身の軍属もいたため、米軍側の民間団体がタラフで

のDNA鑑定を実施する。同省関係者によると、少なくとも日本人1人の身元が判明した。

のDNA鑑定は16年度から、遺骨にも同じ検体を採取している。日本同様、DNA鑑定で身元が判明したケースがあるという。

厚労省は2003年度から、遺骨と遺族のDNAを照合して血縁関係を調べる鑑定を始めた。これにより、埋葬記録があるシベリア抑留者1160人の身元が判明している。一方、戦闘地域での鑑定対象は原則、印鑑などの名前入りの遺留品が近くにある遺骨に限られ、身元が判明したのは今回を含めて17人にとどまる。遺留品なしのDNA鑑定は16年度か

の半数の1万8千人。16年度は戦没者遺骨収集推進法に基づき、国の義務として遺骨収集を進め、24年度まで集中的実施。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度の海外派遣は中止になっている。

【黒金電】

戦没者遺骨の身元 DNAのみで判明

太平洋中部 遺留品なく

太平洋戦争の激戦地で、太平洋中部のタラフ環礁(キリバス)で見つかった身元がわからない戦没者遺骨をめぐり、厚生労働省は26日、DNA鑑定で日本人1人の身元が判明したと発表した。遺留品などの身元の特定に結びつく資料がなく、DNA鑑定で

けて身元が分かったのは初めて。タラフでは1943年、上陸した米軍と激戦になり、日本側は朝鮮半島出身者約1千人を含む約4200人が全滅したとされる。昨年、米政府を通じてアジア人とみられる遺骨162柱の検体が提供された。日米韓の3カ国で鑑定を進め、これまで日本人遺族150人の検体との照合が完了した。

厚労省は2003年度から、遺骨と遺族のDNAを照合して血縁関係を調べる鑑定を始めた。これにより、埋葬記録があるシベリア抑留者1160人の身元が判明している。一方、戦闘地域での鑑定対象は原則、印鑑などの名前入りの遺留品が近くにある遺骨に限られ、身元が判明したのは今回を含めて17人にとどまる。遺留品なしのDNA鑑定は16年度か

朝日新聞↑
(2020.8.27)

毎日新聞↑
(2020.8.25)

現地慰霊について

若い方には是非、現地慰霊にご参加頂きたいと思います。なぜ、遠い南の小さな島で戦争をしなければならなかったのか、実際に自分の目で現地を見て、歴史を学び、これからの日本のあり方を考える糧にしてほしいと願っています。希望者があれば主催で実施します。会員でしたら、どなたでも参加出来ます。訪問する島は主碑のあるケゼリン島及びルオット島です。希望があれば首都、マジュロ島への訪問も可能。マジュロ島には日本政府が建立した慰霊碑「東太平洋戦没者の碑」があります。希望者は事務局までご連絡下さい。期間は約一週間(6~7日間)日本からの往復に4日かかります。費用は約30万円前後(参加人数により変動あり)

ら沖繩戦の遺骨について試行的に始め、今年度からタラフや硫黄島を対象を広げている。身元判明を受け、今後、さらなる対象地域の拡大も検討する。
(石川春葉)

その他 現地に行く方法

- 1.個人で行く場合はケゼリン島・ルオット島へは入れません。
- 2.日本遺族会主催の現地慰霊(毎年実施)参加資格は「遺児」に限ります(付き添いは除く) 費用は10万円 期間は7日~9日間訪問する島はマーシャル諸島・ギルバート諸島
- 3.厚労省主催の現地慰霊(不定期で実施) 参加資格 遺族なら誰でも参加出来ます 費用の三分の一の補助あり 期間は7日~9日間 訪問する島はマーシャル諸島・ギルバート諸島